

## 2. 地震被害

平成23年（2011年）3月11日（金）14時46分ごろ、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が起きました。揺れの強さを示す「震度」はもっとも強かったところで7、地震の大きさを示す「マグニチュード」は9.0となりました。これは、これまでに日本国内で観測されたなかで最大です。

この地震は、大津波や余震をともない、東北地方から関東地方にかけて、大規模で深刻な災害をもたらしました。

この地震により亡くなった方、行方が分からなくなった方のほとんどは津波によるものですが、そのほかにも建物や施設が壊れたり、地面や道が崩れて通行ができなくなることにより、数多くの方が被害を受け、日本国内全体に影響をましました。

また、福島県双葉郡にある東京電力福島第一原子力発電所が、この地震および津波により大きな被害を受けました。

原子力発電所では、放射能（放射線を出す力）を持つ物質を使って発電を行いますが、放射線が人体に害をあたえないよう、丈夫な容器におさめています。ところが地震により、容器に閉じ込めておくことができなくなり、外にもれ出しました。さらに、建物が爆発により壊れてしまい、放射能を持つ物質が外に出て、広い範囲に広がってしまいました。

この事故は、原発事故の深刻さをあらわす数値のなかでもっとも大きな「レベル7」とされました。

被災地の方たちはもとより、日本全体の産業や経済、生活にも影響がありました。

いっぽうで防災や、被害を受けたあとの対策の大切さがあらためて見直されました。また、平成7年（1995年）の阪神大震災をきっかけに広まった「災害ボランティア」の活躍や、それを支援する動きが見られました。

写真では、以下のような被害の様子がわかります。

- ・大きなものや重いものが倒れた室内（宮城県）
- ・夜通し続いた火事と、消化活動にあたる人たち（福島県）
- ・倒れたブロックべい（宮城県）、崩れたへい（福島県）
- ・防災頭巾で登下校する児童、地面にできた大きなさけ目（千葉県）
- ・道やがけが崩れた様子（福島県、宮城県）
- ・緊急消防援助隊の消火活動の様子（東京消防庁提供）
- ・緊急消防援助隊の海水利用型消防水利システムを使った活動の様子（東京消防庁提供）
- ・消防防災ヘリコプターによる救助活動の様子（東京消防庁提供）
- ・緊急消防援助隊の野営の様子（東京消防庁提供）
- ・被災者が救護されている様子（東京消防庁提供）
- ・緊急消防救助隊による福島第一原発3号機への放水（東京消防庁提供）